

第 35 回 幹 事 会

平成 19 年 4 月 9 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者一覧
- 資料 3 非公開審議事項
- 資料 4 第35回幹事会議事要旨
- 資料 5 諸報告事項
- 資料 6 審議事項

- 資料 7 対外報告「第一報告：国際天文学連合における惑星の定義及び関連事項の取扱いについて」

- 参考 1 日本学術会議第150回総会日程概要（案）
- 参考 2 財団法人 日本学術協力財団 役員名簿（新・旧）
- 参考 3 日本学術会議における今後の予定

第 35 回幹事会議事次第

日 時 平成 19 年 4 月 9 日 (月) 16:30～

議 題

I 非公開審議事項

1 委員会関係

- ・ 国際委員会における小分科会の委員の決定 (提案 1)
 - ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員会の委員の決定 (提案 2)
 - ・ 分野別委員会分科会の委員の任期及び設置期間の延長 (提案 3)
 - ・ ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会委員の任期及び設置期間の延長 (提案 4)
- ##### 2 外部委員候補者の推薦
- ・ 外部委員候補者の推薦 (提案 5)

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 対外報告

- ・ 対外報告「第一報告：国際天文学連合における惑星の定義及び関連事項の取扱いについて」(提案 6)

1 審査結果の回答

- ・ 学術刊行物の審査 (提案 7)
- ・ 日本学術会議協力学術研究団体の指定 (提案 8)

2 代表派遣関係

- ・ 平成 19 年度代表派遣 (平成 19 年 6 月分) (提案 9)
- ・ 平成 19 年度代表派遣の変更 (平成 19 年 4～6 月分) (提案 10)

3 地区会議関係

- ・ 平成 19 年度各地区会議事業計画 (提案 11)

4 委員会等主催シンポジウムの開催

- ・ 公開シンポジウム「植物生理情報のモニタリングと植物生育制御への応用」の開催 (提案 12)
- ・ シンポジウム「新グローバル化のなかの農業知財：SCM/DCM の文脈化」の開催 (提案 13)
- ・ イノベーション・シンポジウムの開催 (提案 14)
- ・ 公開シンポジウム「健康リスクとリスクコミュニケーション」の開催 (提案 15)
- ・ 第 6 回産官学連携推進会議の開催について (提案 16)

5 後援

- ・ 国内会議 (提案 17)

IV その他

第 35 回 幹事会 (4 月 9 日) 出席者一覽

会 長	金 澤 一 郎
副会長	浅 島 誠
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	土 居 範 久

第一部 部長	広 渡 清 吾
副部長	佐 藤 学
幹事	江 原 由美子
幹事	小 林 良 彰

第二部 部長	唐 木 英 明
副部長	北 島 政 樹
幹事	鷺 谷 いづみ
幹事	山 本 雅

第三部 部長	海 部 宣 男
副部長	小 林 敏 雄
幹事	河 野 長
幹事	大 垣 眞一郎

事務局 谷 口 局 長

諸 報 告 事 項

第 1	前回幹事会以降の経過報告	P. 1
1	賞の推薦	P. 1
2	日本学術会議主催公開講演会の開催	P. 1
3	委員会委員の辞任	P. 1
4	人事	P. 1
第 2	各部・各委員会等報告	P. 2
1	部会の開催とその議題	P. 2
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	P. 2
3	機能別委員会の開催とその議題	P. 2
4	分野別委員会の開催とその議題	P. 3
5	課題別委員会の開催とその議題	P. 6
第 3	総合科学技術会議報告	P. 7

第1 前回幹事会以降の経過報告

1 賞の推薦

件名	照会先	備考
第23回国際生物学賞	各部	推薦見送り

2 日本学術会議主催公開講演会の開催

日本学術会議主催公開講演会「環境学のフロンティアー脱温暖化社会へのシナリオ」を3月28日（水）に名古屋市鯉城ホールにて開催した。

3 委員会委員の辞任

日本学術会議会則第28条第2項の規定により、下記委員会等に所属していた委員の辞任が同委員会において承認されましたので、報告します。

社会学委員会

山岸 俊男(平成18年11月10日付)

哲学委員会 文化・価値の多元性分科会

谷川多佳子(平成19年3月19日付)

4 人事

事務局

管理課長 旧：佐野 美博（平成19年4月1日付）

新：佐藤 憲（ ” ” ）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) **第三部拡大役員会** (第9回) (3月26日)

- ①若手・人材育成問題検討分科会について ②夏期部会について ③4月総会時の第三部会について ④諸報告 ⑤その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) **憲章起草委員会** (第3回) (3月26日)

- ①今後の運営 ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) **科学者委員会** (第20回) (2月19日)

- ① 日本学術会議科学者委員会学協会の機能強化方策検討等分科会主催シンポジウムの開催について

(2) **科学者委員会** (第21回) (4月3日)

- ① 日本学術会議協力学術研究団体の指定について ② 日本郵政公社による学術刊行物の審査協力について ③ 平成19年度日本学術会議主催公開講演会(第1、2回)について ④ 機能別委員会等の再編について

(3) **科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会** (第6回) (3月27日)

- ①調査報告について ②今後のスケジュールについて ③その他

(4) **科学と社会委員会** (第12回) (4月3日)

- ①これまでの審議結果について ②今後の運営について

(5) **国際委員会 ICSU 等分科会** (第3回) (3月28日)

- ① IAP 総会及び執行委員会について ②IAC 理事会について ③ICSU Young Scientists Conference 2007 について ④ICSU 分担金構造改定部会について ⑤その他

(6) **国際委員会 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007 分科会**
(第4回) (3月22日)

- ①プログラムの検討について ② 共催及び後援について ③ 会議支援業務について ④ 次回会議について ⑤ その他

(7) **国際委員会 AASSREC 等分科会** (第9回) (4月6日)

- ① 第17回AASSREC総会(2007年9月27日～9月30日、名古屋)の開催について ②
IFSSO総会(平成19年10月19～21日、インドネシア・バリ島)について ③ その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部関係

(1) **経営学委員会 リテラシー分科会** (第1回) (3月27日)

- ① 役員を選出 ② 分科会の運営について ③ その他

(2) **地域研究委員会 人類学分科会** (第6回) (3月29日)

- ① ユニオン加盟について ② シンポジウムについて ③ その他

(3) **史学委員会 歴史・考古史資料の情報管理・公開に関する分科会**

(第4回) (3月29日)

- ① 歴史・考古史資料の管理・保存・公開について

報告1:「資料の管理・保存公開—有形資料を中心にその理想的なあり方について」 芳賀 満 委員

報告2:「学際資料の情報管理と公開にむけて—GISを基盤とする分散型サーバの構築と連携—」 宇野 隆夫委員

- ② その他

(4) **史学委員会** (第7回) (3月29日)

- ① 史学委員会委員の差し替えについて ② 各分科会の活動報告と今後の活動方針
③ 日本歴史学協会との共催シンポジウム2件(6月23日・10月20日) ④ 高校世界史未履修問題 ⑤ その他

(5) **法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会** (第2回) (3月30日)

- ① 分科会の今後の活動方針について ② その他

(6) **心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会** (第4回) (4月4日)

- ① 平成18年度報告書の承認について ② 平成19年度の審議事項について
③ その他

(7) **法学委員会 「医療事故紛争処理システム」分科会** (第2回) (4月5日)

- ① 論点の整理 ② その他

(8) **法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会** (第3回) (4月5日)

- ① 委員からの報告 ② 今後の活動予定 ③ その他

第二部関係

(1) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 自然人類学分科会**

(第3回) (3月26日)

- ① 分科会主催シンポジウム案の検討について ② 国際人類学民族学会議2008へ

の対応について ③関連学会への連絡について ④分科会のHPについて ⑤その他

(2) 農学基礎委員会 農学分科会 (第2回) (3月27日)

①今後の活動方針について ②その他

(3) 農学基礎委員会 育種学分科会 (第2回) (3月27日)

①当面の活動方針について ②その他

(4) 基礎医学委員会 遺伝医学分科会 (第1回) (3月27日)

①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動方針について ③その他

(5) 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会
(第3回) (3月28日)

①新しい分科会員の紹介 ②第1回シンポジウムについて ③第20期の活動計画について ④その他

(6) 農学基礎委員会 農業情報システム学分科会 (第4回) (3月29日)

①日本生物環境工学会共同主催シンポジウムについて ②農業環境工学関連5学会共同主催シンポジウム「農業知財と地域特産品」について ③その他

(7) 生産農学委員会 畜産学分科会 (第4回) (3月29日)

①今後の畜産学分科会の活動について ②その他

(8) 歯学委員会 (第9回) (3月29日)

①新年度の具体的方針について ②学協会との関係について ③その他

(9) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会 (第4回) (3月29日)

①博物館法改正への対応について ②対外アウトプットの内容検討について ③その他

(10) 農学基礎委員会 農業経済学分科会 (第3回) (3月30日)

①「農業経済学分野における業績評価のあり方について」の検討について ②東アジア経済連携強化に関する検討について ③その他

(11) 臨床医学委員会 呼吸器分科会 (第1回) (3月30日)

①委員長、副委員長、幹事の選出について ②今後の活動について ③その他

(12) 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会 (第2回) (3月30日)

①今後の活動内容について ②新たな参加メンバーについて ③その他

(13) 臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会 (第3回) (4月2日)

- ①「臨床医学会の社会的責任と裁量」－今後の方向性について－ ②その他
- (14) 生産農学委員会 獣医学分科会 (第3回) (4月3日)
①狂犬病シンポジウムについて ②その他
- (15) 農学基礎委員会 農芸化学分科会 (第3回) (4月4日)
①今後の活動計画について ②その他
- (16) 基礎医学委員会 分子医科学分科会(第3回) (4月4日)
①人材養成について ②その他
- (17) 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会
(第7回) (4月6日)
①日本学術会議敷地内禁煙について ②本分科会主催シンポジウムについて ③勧告文の骨子と執筆分担について ④次回の日程について ⑤その他

第三部関係

- (1) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第1回) (3月23日)
①委員長等の選出について ②分科会の今後の進め方について ③学協会、特に日本地球惑星連合との連携について
- (2) 総合工学委員会 持続可能なグローバル資源利活用に係る検討分科会
(第1回) (3月26日)
①総合工学委員会の活動と分科会設置の経緯 ②意思の表出について ③委員長等の選出 ④分科会の活動・運営について ⑤その他
- (3) 機械工学委員会 生産科学分科会 (第3回) (3月27日)
①シンポジウムについて ②その他
- (4) 化学委員会 生体関連化学分科会 (第2回) (3月27日)
①科研費の分科細目における“Chemical Biology”とりあつかい ②分科会としての提言(平成20年9月30日まで)の骨子とロードマップ ③他分科会への対応(IUPACとの関係でオブザーバー参加等) ④その他
- (5) 機械工学委員会 ロボット学分科会 (第1回) (3月28日)
①分科会で取り上げるべき課題と方向性について ②分科会の進め方について ③その他
- (6) 土木工学・建築学委員会 社会基盤ストックの持続性向上のための技術と政策分科会
(第1回) (3月28日)
①役員を選出について ②今後の内容について ③その他
- (7) 環境学委員会 (第6回) (3月28日)

- ①第5回議事録（案）の確認及びその後の活動報告 ②各分科会からの報告 ③シンポジウムについて ④その他

(8) 総合工学委員会 巨大複雑系社会経済システムの創成力を考える分科会

(第2回) (3月30日)

- ①3つのWGからの活動報告 ②報告に関する審議 ③次回までのWG活動の確認 ④その他

(9) 情報学委員会セキュリティ・ディペンダビリティ分科会 (第2回) (3月30日)

- ①本分科会が取り組むべき課題 ②その他

(10) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 (第4回) (3月30日)

- ①今後の活動内容について ②その他

(11) 総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会 (第1回) (3月30日)

- ①総合工学委員会の活動と分科会設置の経緯 ②意思の表出について ③委員長の選出 ④副委員長・幹事の指名 ⑤分科会の活動・運営について ⑥その他

(11) 健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会

(第2回) (3月30日)

- ①シンポジウム「健康リスクとリスクコミュニケーション」について ②今後の活動について ③その他

(12) 地球惑星科学委員会 (第13回) (3月30日)

- ①今後の活動について ②その他

(13) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第3回) (3月31日)

- ①この間の活動について ②今後の活動について ③その他

(14) 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同 若手・人材育成問題検討分科会 (第1回) (4月5日)

- ①役員の選出について ②今後の活動内容について ③その他

(15) 数理科学委員会 (第3回) (4月5日)

- ①数理科学委員会の分科会等からの報告 ②その他

4 課題別委員会の開催とその議題

(1) 子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会 拡大役員会

(第1回) (3月26日)

- ①報告書（案）について ②その他

(2) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第3回) (3月28日)

- ①世界の生殖補助医療に関する法制度 ②法制面から見た生殖補助医療についての現状と課題 ③その他

第3 総合科学技術会議報告

1 本会議

***第65回**

3月30日

- (1) 諮問第6号「ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針の改正について」に対する答申等について (2) 科学技術振興調整費について (3) 科学技術によるイノベーション創出に向けて (4) 最近の科学技術の動向

2 専門調査会

***第63回 評価専門調査会**

3月29日

- (1) 「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」の評価について (2) 評価システム改革の推進について (3) その他

***第34回 知的財産戦略専門調査会**

3月29日

- (1) 知的財産戦略について

3 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 3月29日 *会長出席
- ・ 4月5日 *会長出席

審 議 事 項

(対外報告)

提案 6 対外報告「第一報告：国際天文学連合における惑星の定義及び関連事項
の取扱いについて」 P. 1

(審査結果の回答)

提案 7 学術刊行物の審査 P. 2

提案 8 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P. 3

(代表派遣関係)

提案 9 平成 19 年度代表派遣 (平成 19 年 6 月分) P. 4

提案 10 平成 19 年度代表派遣の変更 (平成 19 年 4~6 月分) P. 6

(地区会議関係)

提案 11 平成 19 年度各地区会議事業計画 P. 8

(委員会等主催シンポジウム)

提案 12 公開シンポジウム「植物生理情報のモニタリングと植物生育制御への応用」
の開催 P. 10

提案 13 シンポジウム「新グローバル化のなかの農業知財：SCM/DCM の文脈化」
の開催 P. 12

提案 14 イノベーション・シンポジウムの開催 P. 14

提案 15 公開シンポジウム「健康リスクとリスクコミュニケーション」の開催 P. 15

提案 16 第 6 回産官学連携推進会議の開催について P. 17

(後援)

提案 17 国内会議の後援 P. 22

6	
幹事会	35

提 案

対 外 報 告

「第一報告：国際天文学連合における惑星の定義及び関連事項
の取扱いについて」

- 1 提案者 物理学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 物理学委員会 I A U分科会・天文学・宇宙物理学分科会における
対外報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に
公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	35

提 案

学術刊行物の審査について

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 学術刊行物の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本郵政公社各支社長から照会のあった標記について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

○ 学術刊行物に指定することが適当である

(題 号)

日本整形外科看護研究会誌

子どもの虐待とネグレクト

法政哲学

Journal of Mark Twain Studies

環境と健康

現代台湾研究

学校メンタルヘルス Journal of School Mental Health

日本NIE学会誌

頭頸部癌 (Japanese Journal of Head and Neck Cancer)

日本燃焼学会誌

日本養護教諭教育学会誌

(申 請 団 体)

日本整形外科看護研究会

日本子ども虐待防止学会

法政哲学会

日本マーク・トウェイン協会

財団法人 体質研究会

台湾史研究会

日本学校メンタルヘルス学会

日本NIE学会

日本頭頸部癌学会

日本燃焼学会

日本養護教諭教育学会

○ 学術刊行物に指定することが適当でない

(題 号)

マーク・トウェイン研究と批評

心身科学部紀要

山口経済学雑誌

東亜経済研究

PHOENIX

風絮

(申 請 団 体)

日本マーク・トウェイン協会

愛知学院大学心身科学会

山口大学経済学会

山口大学経済学会

フェニックス

宋詞研究会

8	
幹事会	35

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定について

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

- 指定することを適当と認める
 - エイチ・エー・ビー研究機構
 - 国際プロジェクト・プログラム マネジメント学会（国際P2M学会）
 - 日本ヒューマン・ケア心理学会
 - 「宗教と社会」学会
 - 鈴屋学会
 - 日本福祉心理学会
 - 筑波大学哲学・思想学会
 - 日本大学史学会
 - 日本リハビリテーション工学協会
 - 日本アメリカ史学会
 - 日本育療学会
 - イアシル・ジャパン（国際アイルランド文学協会日本支部）
 - 西田哲学会
 - 日本キャリアデザイン学会
 - 日本眼炎症学会
 - 日本眼感染症学会
 - 日本ビフィズス菌センター
- 指定することを適当と認めない
 - モバイル学会

9	
幹事会	35

提 案

平成19年度代表派遣について（平成19年6月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	国際リソスフェア計画(ILP)“総合個体地球科学における新フロンティア”およびILP国内代表委員会議	6月12日 ~ 6月13日	2日	ポツダム ドイツ	金尾政紀 特任連携会員 情報・システム研究機構 国立極地研究所助手	地球惑星科学委員会 国際対応分科会 特別派遣

10	
幹事会	35

提 案

平成19年度代表派遣の変更について（4～6月実施分）

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条第2項及び附則第3項の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の変更等）

第21条 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。

- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成19年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地	派遣者	変更内容	変更理由
哲学諸学会国際連合年次運営委員会並びに年次国際会議声明倫理学ロシュニ・デー	6月11日 ～ 6月14日	マリ・ロシュニ (クロアチア)	前田専學	派遣者の辞退	派遣者の都合のため

1 1	
幹事会	3 5

提 案

平成19年度各地区会議事業計画について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由 日本学術会議地区会議運営要綱第6第1項の規定に基づく各地区会議の事業計画原案を、同第2項に基づき整理したので提案するものである。

【参 考】

- 日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（事業計画）

- 第6 各地区会議は、年度当初において当該年度における事業計画案を策定し、科学者委員会に提出しなければならない。
- 2 科学者委員会は、各地区会議の原案に基づき事業計画を整理し、幹事会の議を経て決定する。

平成 19年度各地区会議事業計画(案)

平成19年4月

地区会議名	事業名	開催時期・場所	地区会議事務局
北海道	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議 第1回<u>学術講演会</u>・科学者との懇談会 第2回地区会議 第3回地区会議 現代的教育ニーズ取組支援プログラムにかかるフォーラム出席 地区会議ニュースの発行(No.41) 第2回<u>学術講演会</u>・科学者との懇談会 	平成19年 5月(北海道大学) 6月(未定) 9月(北海道大学) 平成20年 2月(北海道大学) 2月(未定) 2月(未定) 3月(未定)	北海道大学 (学術国際部)
東 北	<ul style="list-style-type: none"> 東北地区会議会員連絡会議(第1回) 科学者との懇談会及び<u>公開学術講演会</u> 東北地区会議会員連絡会議(第2回) 地区会議ニュースの発行(No.27) 	平成19年 6月(東北大学) 9月(福島大学) 平成20年 3月(東北大学) 3月	東北大学 (研究協力部)
中 部	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議 科学者との懇談及び<u>学術講演会</u> 地区会議ニュースの発行(No123) 第2回地区会議 科学者との懇談及び<u>学術講演会</u> 地区会議ニュースの発行(No124) 	平成19年 6月～7月(富山大学) 同 上 9月(予定) 11月～12月(静岡県) 同 上 平成20年 2月(予定)	中部大学 (学務部)
近 畿	<ul style="list-style-type: none"> 第1回近畿地区会議・学術文化懇談会 <u>学術講演会</u>(シンポジウム) 第2回近畿地区会議・学術文化懇談会 第3回近畿地区会議・学術文化懇談会 地区会議ニュースの発行 	平成19年 5月～6月(京都大学) 未定(開催回数は1回以上) 12月～2月(京都大学) 平成20年 2月～3月(京都大学) 3月	京都大学 (研究推進部)
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議 <u>公開学術講演会</u>及び科学者との懇談会 第2回地区会議 地区会議ニュース(No41) (HP上での公開) 	平成19年度 9月～10月(香川大学) 同 上 平成20年 1月～2月(広島大学) 3月	広島大学 (学術部)
九州・沖縄	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地区会議 地区会議ニュースの発行(No106) <u>学術講演会</u>・科学者懇談会 第2回地区会議 地区会議ニュースの発行(No107) 	平成19年度 6月 9月 未定 平成20年 未定 3月	九州大学 (企画部)

1 2	
幹事会	3 5

提 案

公開シンポジウム「植物生理情報のモニタリングと植物生育制御への応用」の開催について

- 1 提 案 者 農学基礎委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催：日本学術会議農業情報システム学分会、日本生物環境工学会
- 2 日 時：平成19年6月26日（火）13：00～16：00
- 3 場 所：リーガロイヤルホテル堺（大阪府堺市）
- 4 分会の開催：農業情報システム学分会を会場において開催
- 5 次 第：

開催趣旨

植物の潜在能力を最大限に生かして高品質の植物を効率的に生産するためには、植物の生理生体情報を有効に活用し、生育制御に結びつけることが不可欠である。近年、分析技術および計測技術の進歩により、分子レベルから群落レベルまでの様々な生理情報を取得できるようになりつつある。植物のモニタリング対象は短期的な環境応答から長期的な生長発育まで多岐にわたる。植物生産において、このような植物の生理情報を高度に分析・計測し、その知見を生育制御にフィードバックすることが期待されている。そこで本シンポジウムでは、生理情報モニタリング手法を用いる第一線の研究者との意見交換を通して、今後の植物生育制御の将来展望について議論する。

プログラム

開会挨拶：橋本 康（日本学術会議連携会員、日本生物環境工学会名誉会長）

趣旨説明：後藤英司（千葉大学園芸学部教授、日本学術会議連携会員）

講演

- 1) Rosa Erra-Balsells（University of Buenos Aires 教授、アルゼンチン）
「Soft-Ionization Mass Spectrometry Techniques in Plant Science（植物研究におけるソフトイオン化法質量分析）」
- 2) 高橋秀幸（東北大学大学院生命科学研究科教授）
「Studies on plant responses to environmental stimuli: Development

from spaceflight experiment (植物の環境応答研究：宇宙実験からの展開)」

- 3) 中西友子 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議会員)
「Real-time imaging of water and elements in a living plant (植物中の水・元素動態とイメージング計測)」
- 4) István Farkas (Szent István University 教授、ハンガリー)
「Identification possibilities of plant wellness with the use of image processing (画像解析による植物の生育状態の検出)」

閉会挨拶： 野口 伸 (日本学術会議農業情報システム学分会 委員長)

13	
幹事会	35

提 案

シンポジウム「新グローバル化のなかの農業知財：SCM/DCMの文脈化」の開催について

- 1 提 案 者 農学基礎委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催：農学基礎委員会 農業情報システム学分科会、日本農業気象学会、生態工学会、農業情報学会、農業施設学会、農業機械学会
- 2 後援（予定）：農林水産省、東京農工大学
- 3 日 時：平成19年9月13日（木）14：30～17：00
- 4 場 所：東京農工大学農学部 講堂（府中市幸町3-5-8）
- 5 分科会の開催：農業情報システム学分科会を上記大学において開催
- 6 次 第：

開催趣旨

東西冷戦の2極構造から超大国1極構造によるグローバリゼーションへの転換は1990年代の特徴の一つであったが、2000年代に入り、アジアや南米の新たな経済ブロック形成の気運が高まり、「超大国+多極化」の新グローバル化がはじまった。わが国の農業は、新グローバル化の中で、低価格の輸入圧力と消費者信頼の遵守圧力のみならず、優良な品種や系統の海外流出、技術やノウハウの海外流出など、知的財産の侵害圧力にも直面している。

そこで、日本農業再生と「農業知財」の保護にむけた新たな技術研究課題を模索するため、本シンポジウムを企画した。講演者には、知財戦略の政策担当者、食品流通の実務者、知財の法律専門家を招き、異業種分野横断の討論を通じて、農学分野と工学分野の融合による技術革新を担ってきた農業環境工学分野の特徴を活かした新学術分野創成の準備をするものである。

開会挨拶：澁澤 栄（東京農工大学教授、日本学術会議連携会員、農業情報システム学分科会委員）

司 会：後藤英司（千葉大学園芸学部教授、日本学術会議連携会員、農業情報システム学分科会幹事）

1) 第1部 講演

- ① 農林水産省知的財産担当参事官（予定）
「農林水産物の知財戦略」（仮題）
- ② 館本勲武（東京デリカフーズ（株）社長）
「医食同源をめざす食品流通」（仮題）
- ③ 正林真之（日本弁理士会副会長）
「地域農産物の商標とブランド」（仮題）

2) 第2部 パネル討論 「農業知財」保護の協働にむけて

司 会 澁澤 栄（東京農工大学教授、日本学術会議連携会員、農業情報システム学分科会委員）

パネリスト

- ① 農林水産省知的財産担当参事官（予定）
- ② 館本勲武（東京デリカフーズ（株）社長）
- ③ 正林真之（日本弁理士会副会長）
- ④ 大下誠一（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員、農業情報システム学分科会委員）
- ⑤ 新山陽子（京都大学大学院農学研究科教授、日本学術会議第二部会員、農業情報システム学分科会副委員長）

閉会挨拶：野口 伸（北海道大学大学院農学研究科教授、日本学術会議第二部会員、農業情報システム学分科会委員長）

14	
幹事会	35

提 案

イノベーション・シンポジウムについて

1. 提案者 北澤宏一（第三部会員）、浅島 誠（第二部会員）、後藤俊夫（第三部会員）、澤本光男（第三部会員）、柴崎正勝（第二部会員）、玉尾浩平（第三部会員）、柘植綾夫（第三部会員）、野家啓一（第一部会員）、柳田充弘（第二部会員）
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議、内閣府、日本経済団体連合会
2. 後 援 各省、マスコミ、各機関
3. 協 賛 企業等
4. 日 時 平成19年6月29日（金）
5. 場 所 日本学術会議講堂
6. 議事次第

趣旨：

日本は、1980年代、新技術を開発活用して新製品を世界市場に投入し、めざましい経済成長を遂げた。しかし、90年代にはグローバル化が急速に進むとともにバブルが崩壊し、経済社会の構造が大きな転換を余儀なくされる中、イノベーションへの活性化の必要性が急速に高まってきた。2006年9月誕生の阿部新政権では、オープンとイノベーションによる新成長戦略が掲げられた。

今、わが国が引き続き、世界の一流国家でありつづけるためには、経済が回復しつつある、この瞬間こそ、真のイノベティブな国家に生まれ変わる最後のチャンスである。

新しいナショナル・イノベーション・エコシステムはいかにあるべきか、次への投資はどうあるべきか。イノベーションの基となる科学技術をどう振興するか、グランドビジョンとロードマップを示す時である。

プログラム：

- 14：00－14：10 挨拶：高市イノベーション担当大臣
- 14：10－16：10 基調講演：黒川内閣特別顧問（イノベーション25戦略会議座長）
キング氏（英国科学顧問）
- 16：10－18：00 パネルディスカッション
司会：石倉教授
パネリスト：上記講演者、御手洗経団連会長、分科会委員 他

15	
幹事会	35

提 案

公開シンポジウム「健康リスクとリスクコミュニケーション」の開催

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長，環境学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同
環境リスク分科会
共 催 第80回日本産業衛生学会
2. 日 時 平成19年4月27日（金）14：00～16：00
3. 場 所 大阪国際会議場 会議室 702
4. 委員会の開催 環境リスク分科会を大阪国際会議場会議室において開催
5. 次 第

開催趣旨

現代社会に住む我々は、多くの環境リスクに曝されている。特に石油化学の発展以後多くの化学物質にとり囲まれ、カネミ油症事件、ダイオキシン類、いわゆる環境ホルモンといった問題が次々と起こり、健康リスクに対する国民の不安が高まっている。これらの問題は、従来の安全か危険かという二分法ではなく、「リスク」という一種の確率の概念で捉えられるようになってきているが、一般国民の理解はまだ十分とは言えない。リスクに関する正しい知識を共有し、リスクを削減していくための手段としてのリスクコミュニケーションに関しても同様である。本シンポジウムでは、リスク社会、化学物質、放射線の健康リスクをとりあげ、どのようにリスクコミュニケーションを考えて行ったらいいのかを、主に衛生学の専門家、行政、市民と意見を交わすことを目的としている。これらのシンポジウムを通して得られた情報や資料を基にして、日本学術会議の対外報告に資する。

プログラム

14:00～14:05 開会挨拶

岸 玲子（北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野教授，日本学術会議会員，日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会委員長）

講演

座長：内山 巖雄（京都大学大学院教授，日本学術会議連携会員，日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会委員長）

清水 英佑（東京慈恵会医科大学教授，日本学術会議連携会員）

14:05～14:35

(1) 「リスク社会を生きる知恵とは」

鈴木 晶子（京都大学大学院教育学研究科教授，日本学術会議会員）

14:35～15:05

(2) 「リスクの実体とリスクの受容：放射線はどれほど危険か」

丹羽 太貫（京都大学放射線生物研究センター教授，日本学術会議連携会員）

15:05～15:35

(3) 「曝露と健康リスク」

吉村 健清（福岡県保健環境研究所所長，日本学術会議連携会員）

15:35～15:55 質疑・応答

15:55～16:00 閉会挨拶

有菌 幸司（熊本県立大学環境共生学部教授，日本学術会議連携会員）

16	
幹事会	35

提 案

産学官連携推進会議の開催について

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり開催すること。

第6回産学官連携推進会議について

1. 趣旨

第3期科学技術基本計画では「科学の発展と絶えざるイノベーションの創出」を掲げ、システム改革と成果の社会・国民への還元を求めているが、人口減少下の我が国が、国際競争の一層激化する中で、持続的な成長を実現するには、社会システムや人材面を含めたイノベーションを全国各地で起こしていく必要がある。

このような視点に立って、産学官連携の推進を担う第一線のリーダーや実務経験者等が一堂に会し、具体的な課題について、研究協議、情報交換、対話・交流・展示等の機会を設けることにより、イノベーションの創出に向けた産学官連携の新たな展開を図る。

2. 主催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、
日本経済団体連合会、日本学術会議

3. 共催（予定）

厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、
科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、
日本学術振興会、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、
理化学研究所、産業技術総合研究所、中小企業基盤整備機構、
日本原子力研究開発機構、情報通信研究機構、
工業所有権情報・研修館、関西経済連合会

4. 後援（予定）

日本商工会議所、経済同友会、全国商工会連合会、京都商工会議所、
京都府商工会連合会、京都工業会、京都経営者協会、技術同友会、
科学技術と経済の会、日本知的財産協会、大学技術移転協議会、日
本産学フォーラム（BUF）、日本ライセンス協会、日本工学会、研
究・技術計画学会、日本工学アカデミー、日本ベンチャー学会、シ
ーズとニーズの会、日本弁護士連合会、日本弁理士会、発明協会、
関東ニュービジネス協議会、ベンチャーエンタープライズセンター
（VEC）、日本新事業支援機関協議会（JANBO）、全国エンジ
ェルズ・フォーラム連合、バイオインダストリー協会、化学技術戦略
推進機構、ヒューマンサイエンス振興財団、農林水産技術情報協会、
農林水産先端技術産業振興センター、食品産業センター、農業・食
品産業技術総合研究機構、日本政策投資銀行、全国信用保証協会連

合会、東京中小企業投資育成株式会社、名古屋中小企業投資育成株式会社、大阪中小企業投資育成株式会社、日本知財学会、ナノテクノロジービジネス推進協議会、産学連携学会

5. 参加者

産学官の第一線のリーダーや実務者・専門家等
(約3,000人)

6. 日時

平成19年6月16日(土) 10:00~20:15

17日(日) 8:30~12:30

7. 開催場所

国立京都国際会館

住所：京都市左京区宝ヶ池 電話：075-705-1234(大代表)

8. 主な内容(プログラム等)

○会議の部

— 6月16日(土) —

8:30~10:00 受付、エキシビション・セッション(出展団体等によるプレゼンテーション)

全体会議パートI

10:00~10:10 ①開会

安倍総理からのメッセージ(アナウンスによる紹介)

10:10~10:50 ②基調講演

高市早苗 内閣府特命担当大臣

(科学技術政策・イノベーション)

10:50~11:30 ③特別講演

岡村正 社団法人日本経済団体連合会副会長

11:30~13:30 エキシビション・セッション(昼食・休憩)

(出展団体等によるプレゼンテーション・ワークショップ等)

13:30～15:30 分科会

- ①「イノベーション」
- ②「地域から世界を目指す地域クラスターの強化」
- ③「第2期を迎える大学の知的財産戦略」
- ④「求められる高度理工系人材」

<進め方>

- ・討議テーマは事前に参加者に明示
- ・パネリストから事例発表
- ・フロアとの意見交換
- ・まとめ

15:30～16:00 エキシビション・セッション（コーヒープレイク）
（出展団体等によるプレゼンテーション等）

16:00～17:00 第5回 産学官連携功労者表彰

全体会議パートⅡ

17:05～18:25 分科会報告・全体討議
（フロアとの意見交換を含む）
座長 相澤益男 総合科学技術会議議員
各分科会主査 他

18:25～18:30 閉会挨拶

18:45～20:15 交流会（会費制）

※展示は20:00まで実施

— 6月17日（日） —

8:30～12:30 受付、エキシビション・セッション
（出展団体等によるプレゼンテーション等）

○展示の部（イベントホール）

- ・展示ブース（企業・大学・研究機関・自治体等の研究成果デモ）
 - 16日（土） 9:00～20:00
 - 17日（日） 8:30～12:30

- ・若手研究者による科学技術説明会
16日(土) 11:30~13:30
17日(日) 9:00~12:00

○インターネットの部(産学官連携推進会議ホームページ上)

- ・展示に参加する企業・大学・研究機関・自治体等紹介
- ・産学官連携功労者表彰受賞者の連携事例紹介 等

(付記)

本会議(第6回産学官連携推進会議)のホームページを開設し、会議案内、参加登録、出展登録、資料・データ等の公開、大学等の研究成果の展示等を行いますので、ご参照ください。

ホームページアドレス

<http://www.congre.co.jp/sangakukan/top.html>

17	
幹事会	35

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○ 後援する

名 称 等	申 請 者	審議付託先
第15回日本運動生理学会大会 ① 主催：日本運動生理学会 ② 会期：平成19年7月25日～27日 ③ 場所：ホテルニューキャッスル（弘前市）	第15回日本運動生理学会大会大会長	第二部

参考 1

○日本学術会議における今後の予定

(1) 幹事会

- | | | |
|-----------|-----------------|---------|
| ① 第36回幹事会 | 平成19年 4月10日 (火) | 12:30から |
| ② 第37回幹事会 | 平成19年 4月11日 (水) | 総会終了後 |
| ③ 第38回幹事会 | 平成19年 5月24日 (木) | 14:00から |
| ④ 第39回幹事会 | 平成19年 6月21日 (木) | 14:00から |
| ⑤ 第40回幹事会 | 平成19年 7月26日 (木) | 14:00から |
| ⑥ 第41回幹事会 | 平成19年 9月20日 (木) | 14:00から |
| ⑦ 第42回幹事会 | 平成19年10月10日 (水) | 総会終了後 |
| ⑧ 第43回幹事会 | 平成19年10月11日 (木) | 総会終了後 |
| ⑨ 第44回幹事会 | 平成19年10月12日 (金) | 委員会終了後 |
| ⑩ 第45回幹事会 | 平成19年10月25日 (木) | 14:00から |
| ⑪ 第46回幹事会 | 平成19年11月22日 (木) | 14:00から |
| ⑫ 第47回幹事会 | 平成19年12月20日 (木) | 14:00から |

(2) 総会

- | | |
|--------------------------------|----------|
| ① 平成19年 4月 9日 (月) から11日 (水) まで | [春の定例総会] |
| ② 平成19年10月10日 (水) から12日 (金) まで | [秋の定例総会] |

財団法人 日本学術協力財団 役員名簿（新）

平成19年4月1日現在

会 長	伊藤 正男	(独)理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問、 元日本学術会議会長
副会長	利谷 信義	東京家政学院大学長、元日本学術会議副会長
理事長	黒川 清	内閣特別顧問、前日本学術会議会長
常務理事	桑原 博	(社)時事画報社顧問
理 事	秋元 勇巳	三菱マテリアル(株)名誉顧問
	内田 盛也	(社)日本工学会顧問、元日本学術会議第5部部長
	大崎 仁	大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事
	小島 順彦	三菱商事(株)代表取締役社長
	斉藤 邦彦	民間外交推進機構理事長
	田中 宏樹	(財)国際科学技術財団理事、元日本学術会議事務局長
	吉川 弘之	(独)産業技術総合研究所理事長、元日本学術会議会長
監 事	市川 惇信	(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター顧問、 元日本学術会議会員
	橋本 豊	(学)誠美学園理事長、元日本学術会議事務局長
評議員	石和田 洋	(社)日本広報協会理事長、元日本学術会議事務局長
	岩井 宜子	専修大学大学院法務研究科教授・副院長、 元日本学術会議会員
	岩村 秀	日本大学大学院総合科学研究科教授、 元日本学術会議第4部副部長
	開原 成允	国際医療福祉大学大学院大学院長
	川口 雄	(社)青少年育成国民会議専務理事、元日本学術会議事務局長
	久米 均	中央大学理工学部教授、元日本学術会議第5部部長
	河野 博忠	常磐大学講師、元日本学術会議第3部部長
	佐々木恵彦	日本大学総合科学研究所教授、元日本学術会議第6部副部長
	富浦 梓	国立大学法人東京工業大学監事、日本学術会議第5部部長
	中村 守孝	(財)未来工学研究所副理事長
	永島 泰彦	(財)経済調査会監事、元日本学術会議事務局長
	蓮見 音彦	和洋女子大学大学長、日本学術会議第1部部長

財団法人 日本学術協力財団 役員名簿 (旧)

平成19年3月31日現在

会 長	近藤 次郎	環境テクノロジーセンター会長、元日本学術会議会長
副会長	伊藤 正男	(独)理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問、 元日本学術会議会長
理事長	利谷 信義	東京家政学院大学長、元日本学術会議副会長
常務理事	田中 宏樹	(財)国際科学技術財団理事、元日本学術会議事務局長
理 事	秋元 勇巳	三菱マテリアル(株)名誉顧問
	内田 盛也	(社)日本工学会顧問、元日本学術会議第5部部長
	川村 皓章	(財)国際障害者年記念ナイスハート基金会長
	森 亘	東京大学名誉教授、元日本学術会議会員
	安嶋 彌	(社)日本工芸会会長
監 事	市川 惇信	(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター顧問、 元日本学術会議会員
	橋本 豊	(学)誠美学園理事長、元日本学術会議事務局長
評議員	石川 忠雄	慶應義塾大学名誉教授
	石和田 洋	(社)日本広報協会理事長、元日本学術会議事務局長
	大澤 弘之	(財)リモート・センシング技術センター理事長
	岡村 總吾	東京電機大学名誉学長、元日本学術会議第5部部長
	桑原 博	(社)時事画報社顧問、
	小坂 樹徳	虎の門病院名誉院長、元日本学術会議第7部部長
	中川 秀恭	北海道大学名誉教授、元日本学術会議副会長
	永島 泰彦	(財)経済調査会監事、元日本学術会議事務局長
	西島 安則	京都市産業技術研究所所長、元日本学術会議会員
	渡邊 格	慶應義塾大学名誉教授、元日本学術会議副会長

注：渡邊 格評議員は、平成19年3月23日逝去